

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記号）】			
事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和6年7月30 日	評価結果市町村受理日	令和6年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、通所介護、有料老人ホーム、支援ハウス、高齢者専用賃貸、保育園等の施設があり、少し離れてはいるが、特別養護老人ホーム、学童保育、居宅介護支援事業所がある。コロナウィルス感染症等感染状態をみながら、交流を行っています。 保育園の運動場が、園から見える位置にあり、保育園児が、遊んだり、運動会の練習風景を見ることができます。入所者の皆様方喜んでいらしゃいます。毎日入浴の時間を設けているので、ゆっくりと入浴を楽しんでいらしゃいます。職員一同、入居者様全員が明るく、元気に楽しく、その人らしく暮らせるように支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは理念である「地域の中で自分らしく過ごす。」を基に、近隣にある保育園児や通所介護事業所の利用者、及び家族との繋がりを大切にしている。ホームの窓からは隣接した保育園児の遊ぶ姿が見えることもあり、入居者の癒しになっている。今年度の年間目標として「利用者に寄り添う」を掲げ、職員は入居者が元気に楽しく、その人らしく暮らせるよう寄り添う支援に努めている。家族の要望で入居者へ白寿の祝いをする為に外出する際は、その方の状態に応じて、リハビリパンツやパットの使用法などを家族へ助言し、家族の不安を軽減し外出してもらうことで入居者と家族との関係を継続すると共に、ホームの信頼関係の形成に繋がっている。毎日入浴できるよう準備し、入居者はゆっくり湯舟に浸かって入浴を楽しまれている。共用空間は毎朝窓を開け、掃除機やモップにて拭き掃除を行い、入居者が清潔な環境で居心地よく過ごせるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす。と言う理念を掲げてやっています。感染症対策の為、中々地域との交流ができていない	ホームは理念である「地域の中で自分らしく過ごす。」を基に、近隣にある保育園児や通所介護事業所の利用者、及び家族との繋がりを大切にしている。今年度の年間目標として「利用者に寄り添う」を掲げ、職員は入居者が元気に楽しく、その人らしく暮らせるよう寄り添う支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策の為、ここ数年外部との交流は、出来ていない。リモートによる、研修会や会議には参加している	コロナの感染状況を確認した上で、入居者は隣接の保育園児の踊りを窓越しに見学した。敷地内にある同法人の通所介護事業所を利用している入居者の知人と会話するなど交流する機会がある。ホームへ入居等の問い合わせや相談にも気軽に応じており、地域との繋がりができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事等は、全く参加できていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束適正委員会・身体拘束、利用者様の現状報告、自己評価や外部評価の結果報告、研修報告等 また、利用者様家族からの要望等聞いたりしている。	運営推進会議は年6回開催し、島原地域広域市町村圏組合職員、民生委員、家族代表、施設長、計画作成担当者、職員が参加している。議題として、身体拘束について、入居者の状況、行事等について情報を提供し、各委員から意見・要望を聞き運営に活かしている。欠席した委員には議事録を郵送し、家族には花応園たよりの発送時に伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査員の方や、運営推進会議の担当者様には、伝えている	介護保険の更新の際、認定調査員の訪問調査を受けたり、運営推進会議の際に島原地域広域市町村圏組合職員へホームの現状や取り組みを伝え、情報交換を行っている。毎年、外部研修会は島原半島グループホーム協議会より案内があり可能な限り参加するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、島原半島のグループホーム協会の研修に参加している。また、運営推進会議でも報告している。	身体拘束廃止に関する指針を作成している。運営推進会議に合わせて、身体拘束適正委員会を開催している。管理者が「身体拘束・虐待防止について」のリモート研修を受講し、その後職員にも資料を配布し伝達・共有している。日中は、玄関にカギを掛けず、見守りにて身体拘束をしないケアに努めている。また、虐待防止検討委員会を開催し虐待防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても同様にグループホーム協会の研修に参加している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方はいらっしゃる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方には、契約時に説明している。要望もその時に尋ねる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんど回答がない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議ができるときは、行事や利用者様の情報交換を行っている。内部研修も行っている。	職員は職員会議、申し送り、職員間の会話の際に入居者の介助の気づきや、行事の提案など、意見や要望を検討し、適宜運営に活かしている。管理者は職員それぞれの勤務状況に配慮して勤務シフトを立案している。夜間帯は職員の詰め所に設置しているベットセンサーで本人の脈拍・睡眠状態・離床等が把握できるシステムを導入し、入居者の安全と職員の負担軽減に繋げている。	ホームで介護現場におけるハラスメントに関するマニュアルを整備している。今後、職場内でハラスメントに対する方針や相談窓口の職員周知、研修等の機会を通じて、円滑な職員意見の反映とより良い職場環境の整備に繋げることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分達の思いどおりに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加したり、役員会等、参加している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の居宅介護支援事業所からがほとんどだが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は、事前に連絡を頂いた方については、施設内の見学を受け入れている。居宅介護支援事業所の介護支援専門員の方とは、密に連絡を取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所からの相談がほとんどで、個人的に相談に来られる方は、いらっしゃいません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌をうたったり、レクリエーションをしたりしながら、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室については、入所時に家族にお願いをしているが、コロナウィルス感染症対策の為、現在も面会を職員室ののみと制限しており、居室の立ち入りを禁止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんどない。あっても、家族もわからない方の名前が出たり、既に、亡くなっている方の名前だったりする。	家族の要望で入居者へ白寿の祝いをする為に外出する際は、その方の状態に応じて、リハビリパンツやパットの使用法などを家族へ助言し、家族の不安を軽減している。馴染みの美容室には家族と一緒にいってもらおうなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声かけしている。場合によっては、職員が、間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の面会を人数制限されているので、家族優先になるため、家族より報告を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても理解できない方もいらっしゃる。出来るだけ表情や行動で理解、把握することに努めている	言葉で思いを伝えることが困難な方には、職員が本人の表情を観察し、寄り添いながら入居者の思いを引き出すようにしている。感情の起伏が激しい方には無理強いせず、機嫌の良い時を見計らってトイレ誘導をするなど、本人の表情・仕草や状態を観察しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。話せる方は、本人に聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、その日の体調や、心身の状態を見て、過ごし方を判断している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を作成して職員で話し合っている	管理者兼計画作成者は入居者との日頃の関わりの中で、入居者、家族の思いや意見を聞き、評価表（モニタリング実践記録表）を作成し、職員全員で話し合った上で本人の現状に即した介護計画を作成している。3か月ごとに見直しを行い、状態変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしている。個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力により、自由に外出出来ているかた方と、そうでない方の差がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自で、愛野記念病院との関係を持ち、月に一度訪問診療を全員が受けている。その為、夜間や急変時の受け入れもスムーズに対応して頂いている。	入居前からのかかりつけ医を受診している方もいる。訪問診療を全入居者が受けられている。診療の際、職員が入居者の状態を口頭で知らせ、診察結果は業務日誌で職員間で共有している。他科や遠方の病院受診にも職員が同行している。薬の変更や状態変化があった場合は、家族に電話連絡して知らせている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も職員全員で行っているため、情報交換も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	愛野記念病院への入院の方については、訪問診療時など、ドクターと話して、早く退院出来る様に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りに関するアンケートを実施しているが、職員としての看護師の配置がなく、主治医の協力なしにはできないので、現在は行っていない。	契約時に看取りについて説明している。入居者の重度化に伴い、看取りのアンケート調査を家族に実施し、家族へ意向を確認すると共にホームでできる医療を説明して、医師、入居者、家族、職員と相談した上で医師の判断により病院へ入院する等家族が移設を選択している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成している、全員が普通救命講習を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練や、災害時の対応については、話し合いを行っている。	年3回、日中・夜間・火災想定避難訓練を実施している。敷地内にある通所介護事業所や有料老人ホームと夜間避難誘導マニュアルを共有し、協力体制を構築している。非常時の備蓄品につき、食料品を3日分以上整備し、保存食リストを作成し管理している。	生活用品の備蓄品は倉庫に保管しているが、職員にも周知できるよう生活用品リストを作成して管理することが望ましい。また、有事の際に近隣事業所の協力体制はあるが、今後、運営推進会議等を通じて地域の方に協力を求め、地域と災害時の協力体制を築けるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修として、接遇研修を行っている。耳が遠い方については大声で耳元で話している。なので他の方が聞いたら、怒鳴っているように聞こえている時がある。	契約の際に入居者の写真等の取扱いについて家族より同意を得ている。職員は接遇や身体拘束（スピーチロックなど）に関する研修を受けている。難聴の方には耳元で話をするようにしており、声が大きくなりすぎた場合は、職員同士で注意し合い、人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が決める場面も作っているが、決めることができない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者様の希望通りに行う事は難し、出来るだけ対応する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものがほとんどだが、家族が遠方の方もいらっしゃる。施設で対応している。カットや、毛染めなどで家族が、美容院へ連れていかれる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲で色々と手伝って頂いている。	栄養士が立案した献立により、職員が旬の食材を用いて食事を提供している。入居者の嚥下状態に合わせてミキサー食・刻み食を提供している。行事食は毎月1日は赤飯、誕生会には刺身、煮物、茶碗蒸し、誕生会にはケーキを提供している。おやつはミルク餅、マーフィン、蒸しパンなどを手作りし、入居者の楽しみになっている。。梅干し作りは、梅干しのへた取りを職員と一緒に手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とは言えないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持ち込まれたものは、利用者様全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声かけ、誘導している。出来ない方については、職員が、介助している。また、義歯の方は、夕食後洗浄液につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、記録するようにしている。尿意便意がない方については、時間を見て誘導するようにしている。出来るだけ、布パンツにパット使用で過ごしていただいている。	職員は個人記録に排泄状況を記録し、入居者の状態に合わせ、排泄自立の方は見守りし、トイレ誘導が必要な方は時間誘導をするよう支援している。夜間は離床センサーを確認し、トイレやポータブルトイレで排泄の見守りや介助を行っている。なるべく布パンツとパットの使用をしてトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をおこなっているが、ほとんどの方が下剤服用されている。様子を見ながら、医師と相談、薬を調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入浴出来る様にしている。拒否なされる方は、時間を置いたり、職員が交代して声掛けを行ったりして、スムーズに入浴して頂けるように工夫している。	入浴の際はバイタルチェックを行い、毎日の入浴でゆっくりと湯舟に入って楽しめるよう支援している。重度の方は職員2人による介助で、リフトを使用し安全に留意した上で支援している。脱衣場・風呂場は電気ヒーターやサーキュレーターにて管理しており、気持ち良く入浴できるよう配慮している。	入居者のヒートショック対策のためにも脱衣所には温度計等を設置し、職員の体感だけではなく室内外の温度差を見える化して支援に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は、活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、行事等出来るだけ工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、戸外に出かける様にしている。感染症対策も兼ね最近、ドライブのみになっている。	コロナが5類になり天気の良い日は敷地内の桜の木を見ながら散歩し、弁当を食べて楽しんでいる。外出にあたり、体調の良い方を季節の花見やドライブに連れて行く支援を行っている。職員は敷地内の自動販売機で入居者が自分でジュースを買うなど支援し、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理しているが、小遣いとして、1000円で、自販機でジュースを買うくらいです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族からかかって来るが、手紙のやり取りをなさっている方はいらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、すぐ下にグランドがあり保育園児の遊ぶ姿が見れたり、周りには花木が沢山あるので、季節を感じることができている。	ホームの床は足ざわりが柔らかく、転倒防止になっている。朝、窓を開け、掃除機・モップにて拭き掃除し、居心地よく過ごせるよう配慮している。日中、リビングは入居者全員がゆっくりと過ごせるようソファを置き、思いおもいに座り、テレビを見たり、会話をする姿が窺える。ホームの窓からは隣接した保育園児の遊ぶ姿が見えることもあり、入居者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置き、それぞれに応じて、好きなところに座って頂けるようにしている。なかには、居室で過ごされる方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りは、家族にお願いしている。持ち込み物もいろいろです	居室は掃き出しの窓で、明るく窓を開け、換気し、掃除が行き届いている。置時計、誕生日や母の日のプレゼントとしてプリザートの花、家族の写真を飾り、本人にとって馴染みのある居室作りになっている。エアコンは季節の変わり目に掃除をして気持ちよく生活してもらえるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせて、配置や補助具等を利用している。		